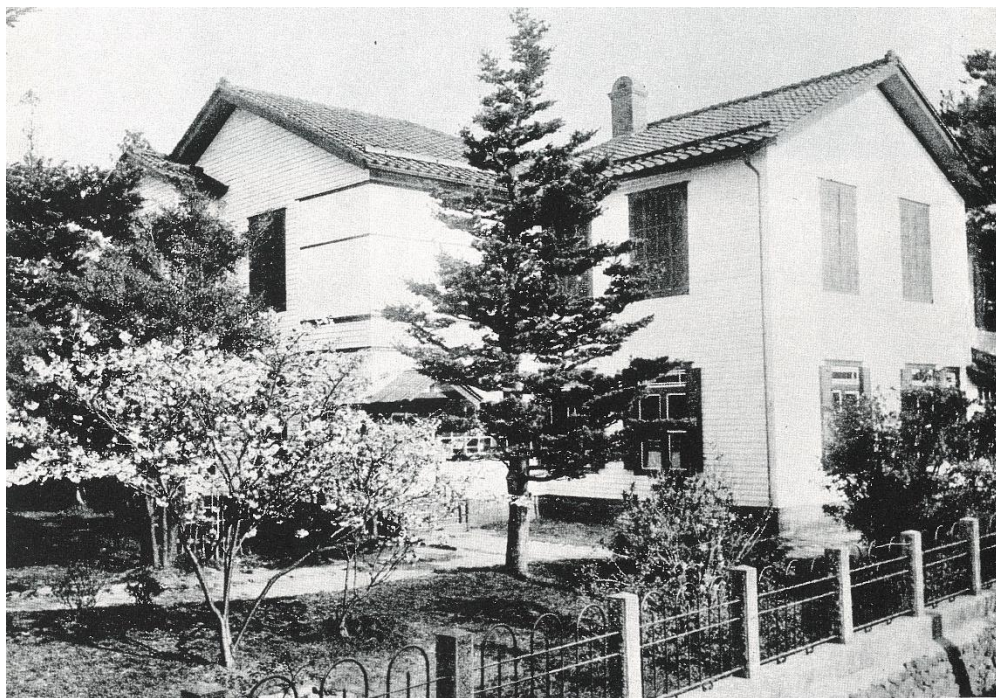




創立当時の園舎 英和幼稚園

(北陸学院幼稚園創立100周年記念写真集編集委員会編『創立100周年記念誌』)

(学校法人北陸学院 1986 年 10 月)より)



英和幼稚園のころの永瀬清子

星と扁桃腺——英和幼稚園のころ

2026(令和8)年 9月4日(金)～12月20日(日)

永瀬清子は、2歳の時に父親の仕事のため金沢に転居し、3歳から英和幼稚園に通いました。この幼稚園で西洋の文化やキリスト教にふれたことは、永瀬清子に様々な影響を与えています。永瀬清子が卒園した翌年には、中原中也が通っていました。

北陸学院は昨年、英和幼稚園につながる北陸学院第一幼稚園は今年、創立 140 周年を迎えました。この幼稚園は、今年度から休園していますが、北陸学院幼稚園は、現存する最古の私立幼稚園として、一貫したキリスト教保育を行っています。

この展示では、金沢で暮らした幼年期の永瀬清子を紹介します。

時 間 午前 9 時～午後 5 時

休室日 月曜日 12月28日~1月4日

入館料 無料

場 所 永瀬清子展示室

(赤磐市くまやまふれあいセンター2階・岡山県赤磐市松木 621-1)

※赤磐市立中央図書館 1 階の歴史コーナーで、本展示の資料の一部を複製し展示しています。

問い合わせ先

赤磐市教育委員会熊山分室 tel 086-995-1360

URL <https://www.city.akaiwa.lg.jp/annai/kyouikuiinkai/kumayama/tenjisitu/index.html>

◆交通案内



◇ 山陽自動車道 15分
山陽・和気ICから車で約
◇ JR熊山駅から徒歩約20分



くわしくはHPで

永瀬清子展示室



私を形成してゐる因子に、はつきり影響をあたへたのは

金沢以外にはないといへやう。

(永瀬清子「遠い日(一)」『北國新聞』一九三六年八月六日より)



英和幼稚園卒業式

後列左から5人目永瀬清子、内藤徳先生
中列左から6人目ジョンストン園長先生

私の通った金沢の英和幼稚園は、ミッションスクールの北陸女学校の付属幼稚園だったので、カナダ人の優しいミス・ジョンストン先生が園長であった。先生は他の外人の先生たちと一緒にすこし離れた女学校の一隅の建物に住んでいらして、窓にはきれいな白いレースのカーテンが見えていた。まだ明治四十年代だったので、「大草原の小さな家」のインガルス夫人みたいなロングスカート姿であり、古い文化の城下町である金沢だったが、ハイカラなキリスト教文化を少しづつ受け入れていた。

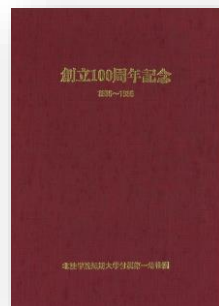
永瀬清子「幼かりし日々」『すぎ去ればすてなつかしい日々』福武書店 一九九〇年六月)



北陸学院幼稚園発祥の地 石碑
(金沢ふるさと偉人館内)
1981(昭和56)年10月

私はもう年をとりましたが、長らく詩を書いていきます。しかしふしぎな事に幼かった時に聴いたり読んだりしたものが、いまも心の隅に新しく生きているような気がする事が多いのです。現実の事や近頃知った事はもう大変忘れっぽいのに――。
ですから幼年から老年は、次第に遠ざかる一筋道ではなく、まるで首尾のつながった輪のようなものに思われ、幼年はすぐ私のそばにあります。云いかえればフットライトに照らされている舞台のように、幼年がいつも私を照らしているとも云えるでしょう。

(永瀬清子「幼年はすぐそばに」『月刊こどもの季節』第二巻第四号 一九七九年七月より)



北陸学院幼稚園創立100周年記念写真集
編集委員会編『創立100周年記念誌』(学校法人北陸学院 1986年10月)

また、さきごろ古い卒園写真がひょくり見つけたが、中央に腰かけているジョンストン先生は、片手を私のうしろにまわし、そっと抱いて下さっているのがあった。
永瀬清子「幼かりし日々」『すぎ去ればすてなつかしい日々』福武書店 一九九〇年六月)